

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第十四回）

みわやま みむろ

「三輪山（三室の山）」

ころも

1) わが衣

そ

色どり染めむ

うまさけ

味酒

みむろ

三室の山は 葉黄しにけり

もみち

作者・柿本人麻呂歌集 卷七―一〇九四

（解説）

私の衣を染めよう。三室の山は見事に紅葉した。

・「味酒」は上等の酒。酒瓶の古語を「みわ」といったことに由来して、三輪山・三室山の枕詞となつてい
る。ここでは三室の山は三輪山であるとの説がある。

・三輪山は奈良県北西部にある奈良盆地の東南部、大
和高原西南端（奈良県桜井市）にあり、標高四六七・
一メートル。盆地側から見ると端正な円錐形をなし、

全山古松、老杉が繁茂し、古来、神（大物主大神）

おおものぬしおおかみ

が鎮まる山として信仰されてきた。

・この三輪山そのものを御神体とする我が国最古の神

おおみわじんじゃ

社の一つとよばれている「大神神社」は古来本殿を設けずに拝殿からご神体である三輪山を拝するということ原始形態の神祀りの様式を今に伝えている。

・この神社を取り囲む三輪山を詠った次の歌がある。

うまさけ

はふり

やまて

2) 味酒 三輪の祝の 山照らす

もみち

秋の黄葉の 散らまく惜しくも

ながやの

おうきみ

作者・長屋

王

卷八一―一五二七

(解説)

三輪の神職の山を照り輝くばかりに色づかせた、秋の紅葉が、散ってしまうのが惜しい。

・祝(はふり)は神職を指す。

(参考文献等) 日本古典文学大系「万葉集」、佐佐木信綱著「万葉辞典」

大神神社ホームページ等

(写生地)

JR桜井線「三輪駅」付近から大神神社の大鳥居と
背景に聳える三輪山を描く。(池田杏花)

